

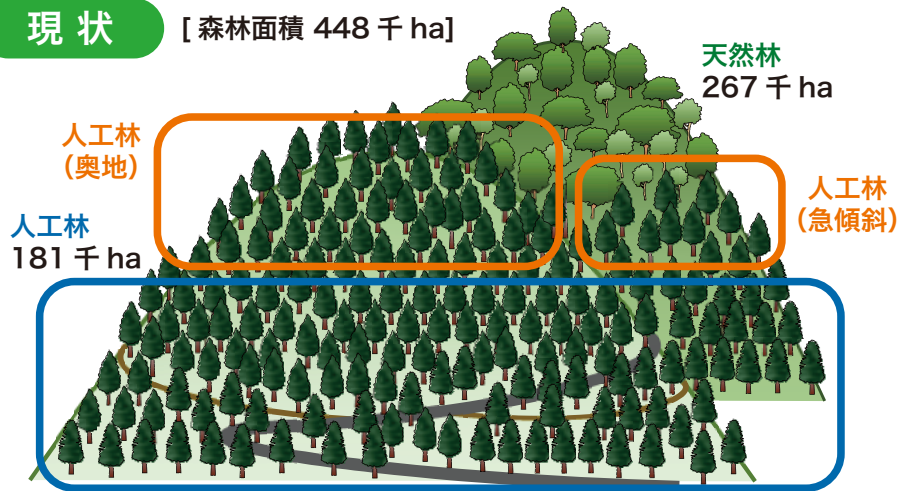
21 おかやま森林・林業ビジョン（見直し版）の概要

（計画期間 令和2（2020）年度～11（2029）年度）

2050年の森林・林業の姿 ～経営管理に着目した森林の区分～

現状

〔森林面積 448 千 ha〕



将来（2050年）



自然条件に照らして林業経営に適さない人工林

- ・人工林の1／3相当（61 千 ha）※
- ・管理コストの低い針広混交林や天然林に誘導（市町村が管理）

自然条件が良く林業経営に適した人工林

- ・人工林の2／3相当（120 千 ha）※
- ・森林経営の集積・集約化を進め、高性能林業機械導入、林道等の整備による計画的かつ効率的な林業生産活動を推進（意欲と能力のある林業経営体による長期経営管理）

※ 改訂時（2018 年）の人工林資源から推計

現状と課題

林業経営

現状

- ・ヒノキを主とする人工林の蓄積は 48 百万 m³ となり年々充実
- ・若齢林が極めて少なく、年成長量は減少傾向
- ・林業就業者数は横ばい傾向

課題

- ・森林経営の集積・集約化を進め、主伐後の再造林などの計画的な森林整備を行い、森林資源を回復
- ・意欲と能力のある林業経営体や技術力のある林業従事者を育成
- ・森林の経営管理を担う市町村を支援

木材生産

現状

- ・木材需給量は 50 万 m³ 程度まで増加し、近年は燃料用が増加
- ・人口減少等により、住宅用の木材需要は減少する見込み

課題

- ・中高層建築物等への新たな需要が期待されている CLT 等の利用を促進
- ・品質と性能に優れた県産製材品の販路拡大
- ・森林整備を促進するため、木材需要拡大により森林資源を活用

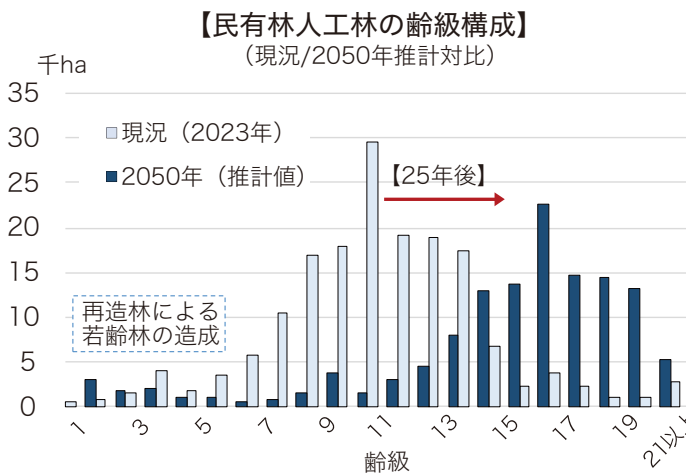
森林保全

現状

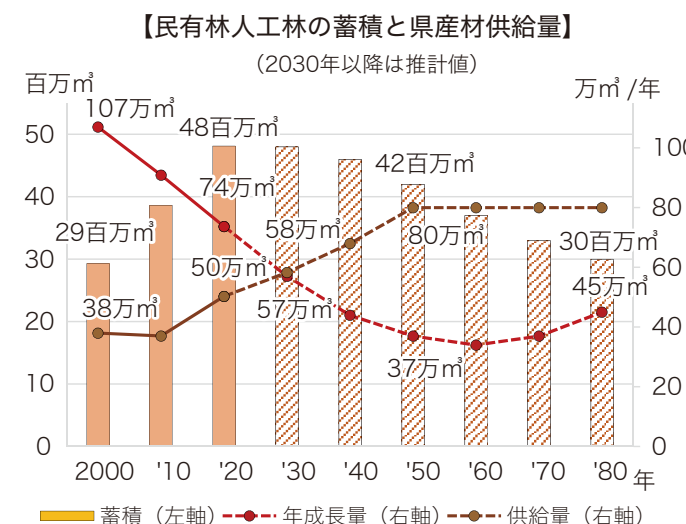
- ・ニホンジカによる植栽木の食害の急増、ナラ枯れ被害の拡大
- ・自主的に森林保全活動に取り組むグループや企業等が増加
- ・豪雨による山腹崩壊等の山地災害が多数発生

課題

- ・他県との広域連携等による継続的な森林病虫獣害の防除
- ・自主的な森林整備活動における指導的人材の育成や安全技術等の向上
- ・治山施設の設置や既存施設の維持管理、森林機能の保全



年齢：林齢を5年の幅でくくった単位。例）1 年齢＝1～5年生



※ 改訂時（2018 年）の人工林資源から推計

施策の基本方針と施策体系

1 持続的な森林経営の推進

- 計画的かつ効率的な林業生産活動の推進
- 確実な再造林と少花粉スギ・ヒノキへの植替えの促進
- 意欲と能力のある林業経営体の育成

2 循環資源である木材・木質バイオマスの利用推進

- 人と環境に優しい木材利用の推進
- 木材製品の品質向上と新たな木材利用

3 県民参加による森づくりの推進

4 快適な森林環境の創出

- 森林資源の適正な管理と花粉発生源対策の推進
- 森林機能の維持増進と防災対策の強化

重点施策

- ◆ 確実な再造林の推進（関係者との合意形成による一体となった再造林対策の推進）
- ◆ 県産材の利用促進（マーケティング戦略等による県産ヒノキ製材品・CLT 等の販路拡大）
- ◆ 花粉の飛散低減の推進（少花粉苗木による花粉発生源対策の推進）
- ◆ 森林経営管理制度の推進（森林経営の集積、意欲と能力のある林業経営体の育成）



【少花粉苗木による再造林】



【CLT による木造建築】



【シカ被害対策の現地検討】